

(独)農研機構の愛知県への地方移転に関する年次プラン

- 愛知県、田原市と連携し、愛知県農業総合試験場や田原市内に研究課題に応じて設置する実証ほ場において、花きの新品種開発等の共同研究等を平成28年度より実施する。具体的には、キクの低コスト生産技術の開発と実証、カーネーション等のゲノム解析成果を活用した新品種開発の共同研究等を実施する。(政府関係機関移転基本方針(平成28年3月22日まち・ひと・しごと創生本部決定)抜粋)

これまでの 取組内容

- ・農研機構、愛知県及び田原市がコンソーシアムを構築し、共同研究等を開始。
- ①キクの低コスト生産技術の開発と実証
- ②ゲノム解析の成果を活用した花き(カーネーション)の新品種開発

H29年度の取組

【愛知県農業総合試験場、田原市】
農研機構の研究者5名が現地に出向いて、愛知県の研究者7名と共同で、花き分野の研究を実施。

- ①キクの低コスト生産技術の開発と実証
- ②ゲノム解析の成果を活用した花きの新品種開発

成果

産学官連携による、新技術や新品種開発のための研究が推進される。



H30年度以降の取組

上記共同研究を引き続き実施するとともに、その成果をとりまとめ、愛知県の普及組織や生産者団体等が連携して、地域への普及と定着を図る。

目指す 将来像

共同研究により開発された花きの低コスト生産技術や新品種を愛知県内に普及定着させることにより、日本最大の花き産地である愛知県の花き生産力のさらなる向上を図り、海外輸入品との競争に勝てる産地を確立する。
我が国最大の花き産地での実証試験等により、農研機構の有する研究成果が最大限に活用され、当該分野の研究のさらなる進展と研究開発成果の社会実装の加速が図られる。